

日時	事業名	取組内容	成果 及び 課題	今後の対応	所管部局名	所管課名
5月28日(月)～6月1日(金)	第1回中国(北京)国際サービス貿易交易会	中国商務部及び北京政府の主催により、中国においてはじめて開催されるサービス産業に関する総合展示会である「第1回中国(北京)国際サービス貿易交易会(CIFTIS)」でのジェットロのジャパン・パビリオン内に、三重県ブースを出展する。	【成果】 ・ネットワークの構築を図るため、県内出展企業6社、北京・天津・上海の各三重県人会、副知事等との交流会を実施し、合計41名の参加者となった。 ・ジェットロ主催のジャパン・デーのレセプションである「ジャパン・ナイト」(日本、中国関係者約200名参加)において、忍者パフォーマンスや海女文化の映像紹介、鈴鹿墨を使った書道家による実演や三重県の食材や地酒などの提供を行い、石垣副知事から三重県の魅力を参加者にPRしました。 ・三重県出展企業6社の5日間の会期を通しての商談件数は延べ114件(そのうち、具体的な商談に至ったものは16件) 【課題】 ・中国語対応できる企業が少ないことが、商談を継続するにあたって障壁となっている。	・中国ビジネスサポートデスクにより支援を行っていく。	雇用経済部	ものづくり推進課
6月3日(日)・17日(日) 7月14日(土)	CoCo壱番屋「シカコロオチャメカレー」PRイベント	CoCo壱番屋が販売を開始する三重県産シカ肉を使った「シカコロオチャメカレー」のPRイベントを実施する。	【成果】 ・6月3日～7月31日までの限定販売だが、期間中9,000食を超える売上が期待されている。 ・インターネット上でのクチコミが話題になり、県外からも食べにくる人がいるなど、ブームになっている。 ・未利用資源である鹿肉の認知度向上に加え、粉茶の消費拡大が図れた。	・引き続き、未利用資源を使ったメニュー化をCoCo壱番屋に働きかけていく。	農林水産部	フードイノベーション課
7月1日(日)～8月31日(金)	夢みえ～る夏キャンペーン2012	社団法人三重県観光連盟では、夏の三重県への観光客の誘客及び周遊滞在の促進を図るため、本年7月1日から8月31日までの間、期間中に三重を訪れていただいた方々を応募対象としたプレゼントキャンペーンを実施する。 【取組趣旨】 旅行需要の高い夏の期間中に、三重県への誘客及び周遊滞在の促進を図るため、三重県観光連盟会員の協力も得ながら、工夫を凝らしたプレゼント企画により魅力付けを行い、本県への誘客を促進する。 【応募方法】 期間中に三重を訪れ、旅の「証し」となる県内観光施設の入場券半券、宿泊施設やみやげ物店のレシート、撮影した写真等を送って応募する。	事業実施中につき、現時点での整理内容 【成果】 ・観光連盟職員と観光事業者等が連携し、関西圏においてメディアキャラバンを実施するなど、積極的な売り込みを行った結果、これまで新聞6紙に記事が掲載された。 ・上記の他、有料広告を含めると、新聞・雑誌等で21件、テレビ・ラジオで10件の情報発信を行っている(但し、予定を含む)。 ・応募用紙を兼ねたチラシを13万枚作成し、東京事務所や大阪事務所を通じて、県外での会議やイベント等で配布しているほか、関西圏、中部圏及び県内の鉄道主要駅、高速道路SA、道の駅、県内の宿泊施設や観光施設、公共施設、商業施設などに設置し、周知を図っている。 ・ホームページ「かんこうみえ」のトップページのほか、7月からは、フェイスブックとツイッターのオフィシャルページからもPRを行っており、口コミによる情報伝達の相乗効果が見込まれる。	事業実施中につき、現時点での整理内容 ・引き続き、8月末まで新聞・雑誌、TV・ラジオ等でキャンペーンのPRを実施する。 ・関西圏や首都圏での観光PRの際、キャンペーンチラシの配布により、周知を図る。 ・SNSを活用したキャンペーンのPRを継続し、口コミによる情報伝達を波及させる。 ・事業終了後、キャンペーンへの応募状況を分析した上で、次年度の取組に反映させる。	観光・国際局	観光誘客課
7月4日(水)～6日(金)	三重県知事の台湾訪問	本県と台湾との産業面・観光面での連携強化を図り、県内企業の台湾展開や台湾企業との連携構築を支援するとともに、台湾からの誘客を促進するため、知事を団長とする産業交流ミッション団、観光交流ミッション団を結成し、台湾を訪問する。 知事は、「2012日台観光サミット」への出席と合わせて、日台観光経済交流会での三重の魅力の発信、現地の経済団体・旅行会社・百貨店へのトップセールス、台湾政府経済部・工業技術研究院への訪問などを行う。 なお、今回のミッション団には、「産業交流の促進」、「県産品の輸出拡大」、「観光交流の促進」の3つの目的がある。	【成果】 ・有名百貨店等への訪問や日台観光経済交流会を通じて、魅力的な県産品の紹介と観光面での魅力発信も含めた三重県物産展の開催を要望し、今後、物産展開催に向けて条件面を検討していくこととなった。(フードイノベーション課) ・経済部及び日台産業連携推進オフィスと面談した結果、「日台産業連携推進オフィス」と産業連携に関する覚書の締結について合意できた。(ものづくり推進課) ・現地では、意見交換会と交流会を通じて、参加企業同士で意見交換、交流を実施したほか、三重県の産業や観光の魅力をプレゼンテーションし、総合的に三重県のトップセールスを展開した結果、すでに、例えば三重県産の水産物の取引など商談に関する問い合わせも寄せられており、今後の大きな成果を予感させる「手応え」を得た。(ものづくり推進課) ・2013日台観光サミットの三重県での開催が決定した。(国際戦略課) ・ミッション団は、旅行会社6社を訪問し、三重県の観光の魅力や各施設等のPRを行った。(国際戦略課) ・商談会は、旅行会社17社25名の参加があり、県内事業者から各施設や具体的なコースの説明などを行った。(国際戦略課) ・観光経済交流会は、日本、台湾合わせて150名以上の参加があり、知事から三重県の魅力や提供した食材について説明を行った。(国際戦略課) ・医療・健康・福祉関係産業企業が台湾へ進出する場合において必要となる台湾における薬事関係の法規制等についての情報入手を円滑に行い、企業活動の支援を行うため、三重県と台湾食品薬物管理局との行政窓口の確認に関する覚書を締結した。(業務感染症対策課) ・台湾国立故宫博物院の周院長と面談して、平成26年に日本で開催される故宫博物院日本展の三重県への誘致を行った。(新博物館整備推進PT) 【課題】 ・覚書に基づき、お互いの産業分析を実施し、それぞれの産業・企業の強みを活かす実行計画を策定したうえで、具体的な産業連携の取組を進めていく必要がある。(ものづくり推進課) ・来年のサミット開催までを台湾との交流・連携の「重点強化期間」とすることから、いかに台湾の人々に三重県を知ってもらい、来ていただくかが課題である。(国際戦略課)	・物産展開催の条件面を検討し、県として継続的な取り組みを行いやすいところのバイヤー招へいを行ったうえで、三重県産品を選定して物産展を開催する。(フードイノベーション課) ・覚書に基づき、お互いの産業分析を実施し、できる限り早くそれぞれの産業・企業の強みを活かす実行計画を策定する。(ものづくり推進課) ・実行計画に基づき、具体的な産業連携の取組を実施する。(ものづくり推進課) ・本年10月に台北で開催されるITF2012(台北国際旅行博)への専用ブースの出展を検討している。(国際戦略課) ・ビジット・ジャパン地方連携事業により、近隣府県等と連携して、近鉄レールバスを活用したPRを行う。(国際戦略課) ・新たな誘客につなげる取組を検討していく。(国際戦略課)	農林水産部 雇用経済部 観光・国際局 健康福祉部 環境生活部	フードイノベーション課 ものづくり推進課 国際戦略課 業務感染症対策課 新博物館整備推進PT
7月9日(月)	野村證券講演会 知事が語る「我が県の素敵なおとこ」	・各知事が地域の魅力を全国に情報発信する。 ・約200名の方を対象に三重と東京のつながりを交えながら、歴史・文化、三重の魅力、世界に向けた取組について講演を行う。 ・あわせて、講演内容に即した物産等のPRを実施する。 ・本会場での物産PR後に、マスコミへの忍者売り込み訪問を実施する。	【成果】 ・アンケート結果では97%の方が有意義な内容であったとの評価。 ・山形県とのlocal to local の連携決定 ・伊勢新聞及び交通新聞社に記事掲載。 【課題】 ・三重を予感いただいたところであり、この場限りとならないよう、実際三重に来ていただくための誘導策を講ずる必要がある。	・三重県の観光情報などを継続的にE-mailで情報発信を行う。 ・今回の講演内容をもとに、三重の魅力を発信するDVDを作成し、全国に情報発信を行う。	雇用経済部	三重県営業本部担当課

営業活動の主な取組の成果について(6月～7月)

参考資料1

日時	事業名	取組内容	成果 及び 課題	今後の対応	所管部局名	所管課名
7月13日(金)	台日産業連携推進オフィスとの産業連携に関する覚書の締結	県内企業と台湾企業の産業連携を推進するため、台湾政府経済部のもとに台日産業連携を推進するために設置された「台日産業連携オフィス」と本県との間で覚書を締結する。	【成果】 ・知事の訪台の成果として、「台日産業連携推進オフィス」と産業連携に関する覚書を締結。 【課題】 ・覚書に基づき、お互いの産業分析を実施し、それぞれの産業・企業の強みを活かす実行計画を策定したうえで、具体的な産業連携の取組を進めていく必要がある。	・覚書に基づき、お互いの産業分析を実施し、できる限り早くそれぞれの産業・企業の強みを活かす実行計画を策定する。 ・実行計画に基づき、具体的な産業連携の取組を実施する。	雇用経済部	ものづくり推進課
7月14日(土)	地物一番の日キャンペーン 三重モロヘイヤの夏カレーPR	「地産地消」の推進PRとして、地物一番の日キャンペーンを実施する。	【成果】 ・ハウス食品(株)、JA全農みえと連携し、イオン津店、マックスバリュ津城山店において、県産モロヘイヤ、フナシメジのPRとそれらを使用したカレーレシビの提案を行った。 ・地産地消PRのため、両店舗とも知事が参加した。 ・両店舗の来場者に地産地消をPRできたほか、マスコミ(テレビ1社、新聞1社)で取り上げられた。	・今後も企業との連携による地産地消のPRを継続していく。	農林水産部	フードイノベーション課
7月18日(水)～20日(金)	三重県副知事の韓国訪問	本県と韓国との経済面等の連携強化につなげていくため、副知事をトップとするミッション団を結成し、韓国を訪問する。具体的には、トップセールスによる企業誘致活動や韓国港湾との関係づくりを行い、また、「麗水(ヨス)世界博覧会」会場で開催される「日韓海女フォーラム」に出席する。 今回のミッション団には、経済交流の推進(韓国企業との関係づくり・韓国港湾との関係づくり)という目的がある。 また、鳥羽商工会議所が「麗水(ヨス)世界博覧会」会場内で開催する「日韓海女フォーラム『海女の集い』」に副知事が出席する。このほか県としては、済州特別自治道との連絡調整などについて側面支援を行っている。	【成果】 ・釜山港湾公社の黄副社長と面談し三重県や四日市港のトップセールスを行うとともに、今後のさらなる連携につき意見交換を行った。(企業誘致推進課) ・日韓海女フォーラムに出席して祝辞を述べるなど海女文化のユネスコの無形文化遺産登録に向けた気運醸成の取組を支援した。(国際戦略課) ・ボスコ社光陽製鉄所を訪問しミン常務と面談・意見交換を行った。この際、今後のさらなる三重県への投資を働きかけた。(企業誘致推進課) ・慶尚南道咸安郡の河盛植郡守と面談し、今後の連携につき意見交換を行った。(企業誘致推進課) 【課題】 ・海女文化のユネスコの無形文化遺産登録のためには、まずは、第一ステップとして県の文化財指定が必要。韓国以外の国においては海女の認知度が低いため、韓国以外の海外への情報発信は忍者に比べるとしにくい。(国際戦略課)	・釜山港及び釜山市との連携について四日市港とともに具体的な方法の検討を行う。(企業誘致推進課) ・9月に済州道で開催される「第5回世界海女祝祭」に、海女振興協議会からの依頼を受け、観光・国際局長が出席する(鳥羽市長も出席)。海外への海女の情報発信については、海女振興協議会で、地域とともに模索していく。(国際戦略課) ・ボスコ社との関係を継続し新たな工場の立地につき働きかけていくとともに、製鉄関係以外の事業の日本展開についても情報収集に努める。(企業誘致推進課) ・咸安郡との具体的な連携について検討を行う。(企業誘致推進課)	雇用経済部 観光・国際局	企業誘致推進課 国際戦略課
7月22(日)～30日(月)	第22回世界少年野球大会 三重・奈良・和歌山大会	・国際野球連盟(IBAF)の選任コーチによる野球教室を行う。世界13カ国・地域から参加する少年少女が熊野市に集い、野球の基本を学ぶ。 ・国際交流試合として、韓国、中国の代表2チームと、三重県、奈良県、和歌山県の12チームによる交流試合を行う。 日本の文化に対する近いを深めるとともに、親交を図るパーティ及び開催各県の地域特性を生かした交流行事を行う。	7月25日時点での内容 【成果】 ・開会式には、多くの観客が訪れ、交流試合や交流行事では地元ボランティアのおもてなしなど、これまでの大会にはない取組を行い、参加者や関係者から喜ばれた。 ・多くの参加者、観客、また大会スタッフや地元ボランティア等多くの皆様が本大会に関わることで、三重県の魅力を国内外に発信できた。 <人数> ・開会式入場者数・・・参加者、スタッフ、ボランティア等 940名 観客 約1,500名 ・地元ボランティア参加者数・・・交流試合、交流行事 約500名	・今後もスポーツイベントを通じ、三重県の魅力を情報発信していく。	地域連携部	スポーツ推進課
7月27日(金) (8月9日(木)にも開催予定)	技術展示会 in Honda鈴鹿	平成24年4月に本田技研工業(株)鈴鹿製作所内に設置された軽自動車の開発・購買部門等と、県内企業とのネットワークの構築・強化を図り、県内企業における今後の技術・製品開発や、販路拡大等の機会の創出を促進するため、鈴鹿製作所内で「技術展示会 in Honda鈴鹿」を開催する。	【成果】(7月27日開催分) ・県内中小企業等30社が出展した。 ・ホンダ及び主要1次サプライヤーの開発・購買担当者等194名が来場された。 ・来場者と出展者の間で、活発な意見交換や商談が行われた結果、38件(試作・見積依頼5件、図面検討依頼4件、訪問等の約束20件、資料送付等の約束9件)の今後の取引等につながる可能性のある成果が生まれた。	・今後も、県内・近隣県の自動車メーカーや1次サプライヤーと県内企業とのマッチングの機会を設定する。 ・展示会来場者と出展者の取引の成約に向けて、本展示会で明らかにした技術課題等に応じて、県職員(工業研究所含む)が出展企業の技術支援等を行うなど、的確なフォローアップを行う。	雇用経済部	ものづくり推進課